

平成26年 2月

黒河（くろこ）の会便り 第5号

「体験講座」

高野七口再生保存会では、黒河口（太閤道）道普請下見ウォークを 4月 5日（土）に行われます。（別紙 参照）

伝説の道 黒河道 とは、

文禄3年（1594）春3月 太閤秀吉の 亡母大政所（天瑞寺殿）の3回忌を高野山金剛峯寺で、3日間にわたり盛大な法会が行われました。

従者に 公卿 近衛竜山
関白 豊臣秀次 と 徳川家康 前田利家 細川幽斉
連歌師 里村紹巴 昌叱

などを従え太閤の威厳を示したものでした。

当時木喰応其は秀吉の高野攻めを、和解交渉で高野を守った実力者で、秀吉とは蜜月の仲であった。秀吉をして「応其の高野ぞ」と言わせたと伝えられている。その応其がこの度の 3回忌を取り仕切った。

亡き母の かたみの髪を手に触れて
包むにあまる涙かなしも 秀吉

連歌

年を経は 若木も花や高野山 秀吉
霞むかなたへ のひろき垣うち 木喰応其
を献じた。

当時 山内は 音曲の類は禅定を妨げるので一切禁止の不文律 があった。秀吉はこの不文律を破り、山内の僧を慰労するものであるとして、新作の能興業「高野詣で」を演じた。

すると鼓の音が山内に鳴り響いた途端、晴天にわかには掻き曇り、黒雲頭上を覆い、激しい風と共に雷鳴が轟き、一山全体が震動した。 さすが秀吉も「こりゃ弘法に負けたわい」と 能を中止させ大慌てで千時院谷を駆け下りた。

紀伊風土記によると、千時院谷から久保村 — 市平村 — 丹生川 — わらん谷 — 明星ヶ田和を経て隅田村護国寺に逃げ込んだとなっている。今も護国寺には「馬繫の松」が植えられている。

今回この太閤が駆け下ったという黒河道を歩くものです。

参加対象は、高野七口再生保存会会員及び協力団体となっております。

黒河の会では参加者を募っています。 別紙 チラシをお読み頂き、ご希望の方は黒河の会から纏めて申し込みますので、 山本一清 又は 川合愛明まで連絡下さい。